

グランロジマン豊中少路

Grands Logements Toyonaka Shoji

No. 03-043-2016作成

新築／まちづくり
集合住宅

発注者	関電不動産開発株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

自由度の高い住戸と広大な緑地空間の追求

立地、周辺環境

大阪の北部地域は千里川を配した丘陵地に形成された市街地となっており、大阪大学周辺の自然緑地等緑豊かな自然環境に恵まれた起伏に富んだ良好な住宅地となっている。1994年に少路駅が開業し、平成12年から人口と世帯数が緩やかに増加している計画地（少路高校跡地）周辺には、静かな住宅地に良好な住環境を保存するための地区計画が策定され、地区を活性化するためのまちづくりが求められている。



全景写真

総合的なコンセプト

- 個性と調和をテーマに郊外の緑豊かな環境で戸建住宅の自由度の高さと集合住宅の利便性の双方を備えたまちづくりを目指す。
- 交流を育むためのしかけとして、コミュニティ施設や広大な緑のオープンスペースを計画。
- 敷地中央に大きく広がる緑の広場の廻りは自走式駐車場を半地下化して屋上緑化し、さらに広大なグリーンスペースを追求。
- 敷地環境の特徴を活かし、変化に富んだ住宅構成で多様なライフスタイルとライフステージに対応するプランを提案。
- 共用部と専有部には様々な環境対策を施し、省エネルギーで環境にやさしい快適な住宅とする。

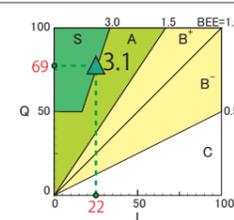


コミュニティ棟廻り：緑地率35%



C街区駐車場：屋上緑化

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	品確法省エネ対策	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠)	BEE=3.1
敷地面積	LCCO ₂ 削減	2010年度版自治体提出
延床面積	※省エネルギー性能とCASBEE評価は棟毎の面積案分にて算出	
構造		
階数		



配置図 環境配慮

共用部の環境配慮

- 敷地内の緑化：35%以上の緑地率を確保し、地表面温度上昇を抑制
- 温熱環境の向上：C街区駐車場棟を地下化して屋上を緑化
- コミュニティ棟の屋上を緑化し、照り返しによる熱を抑制
- 雨水浸透への配慮：透水性のある舗装材を敷地内の歩行者路盤に使用
- 雨水利用：雨水流出抑制槽を棟毎に設置
- 温暖化防止：気化熱による冷却効果で路面温度の上昇を抑える揚水性ブロック舗装をプロムナードに設置
- 局所涼域の形成：コミュニティ棟廻りはミスト（細かな霧）を空气中に散布してクーリング
- エネルギー負荷の低減：共用部の照明器具はLED照明を採用
- 太陽光利用：敷地の南端にあたるA街区の屋上に太陽光発電設備を設置
- 自然エネルギー利用：風力発電機の設置



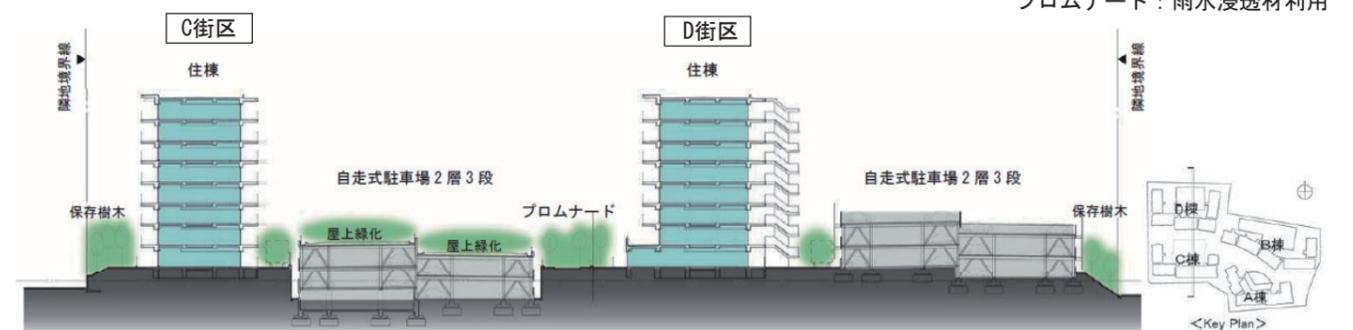
エントランス部：揚水性ブロック舗装



プロムナード：雨水浸透材利用

専有部の環境配慮（住戸毎に対応）

- 自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯器の採用
- サッシに複層ガラスを採用し、住宅性能表示省エネルギー対策等級4を獲得
- キッチンにディスポーザー設備を採用し、生ごみ発生量を低減
- シックハウス対策として全戸にF☆☆☆☆、規制対象外の建材を使用
- 基準階階高を2.91mとし、住戸の中央部の水廻りゾーンは更新性に優れた二重床を採用



断面構成図 環境配慮

設計担当者

統括：奥田英雄／建築：大谷浩三、田畑直樹、大島慎二、岩垂誠、高橋由美子、沼尻真由美、松野健太郎
構造：西村勝尚、藤井正則、田畑博章、松村美孝、宮脇正尚、片岡大
設備：榎原和男、西脇里志、野村浩之、高木彩子、丸尾彰秀、谷部昌俊

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2 .3. 対応性・更新性（設備の更新性）
- Q3 .1. 生物環境の保全と創出（外構緑化、建築緑化）
- Q3 .2. まちなみ・景観への配慮（建物配置や形態のまちなみとの調和）
- Q3 .3. 地域性・アメニティへの配慮（豊かな中間領域の形成）
- LR2 .1. 水資源保護（雨水抑制）
- LR3 .2. 地域環境への配慮（建築緑化、保水性・浸水性材料）